

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 22日

【評価実施概要】

事業所番号	2071500538		
法人名	社会福祉法人恵和会		
事業所名	グループホームこまくさ野村		
所在地	長野県塩尻市広丘野村2146 (電話) 0263 - 51 - 1128		
評価機関名	コスモプランニング株式会社		
所在地	長野市松岡1丁目35番5号		
訪問調査日	平成19年11月14日	評価確定日	平成19年12月12日

【情報提供票より】 (平成19年11月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 7月 28日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 4人, 非常勤 4人, 常勤換算	6.25人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリー造り	
	4階建ての	4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷金	有 (円)	無	
保証金の有無(入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要(平成19年11月 4日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	1	要介護2	6		
要介護3	1	要介護4	1		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 87歳	最低	83歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・こまくさ野村クリニック・中信松本病院・相沢病院・内川歯科医院
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

長野県の中部地区、塩尻市内の北部に位置し、JR広丘駅近くにホームはある。1階にクリニック・在宅介護支援センター、2階にデイサービス、3階にショートステイ、4階にグループホームを有する4階建ての在宅複合施設として平成16年7月に開所した。郊外の新興住宅地の中で、近くには大型店や公園があり、入居者は常時買い物・散歩に出掛けて地域に根差した生活を送っている。住民とも外出の際にはお互いに挨拶を交わし、買い物等で知り合った馴染みの友人が訪れ、賑やかな笑い声がホーム内に弾む時もある。近所の方からは梅や野菜の差し入れがあり、庭の草むしりや花と一緒に植えたりして心豊かな交流にもつながっている。地域密着型施設の先駆けとして法人を立ち上げ、地域で暮らす入居者本位の施設を志した思いが実を結びつつあることがひしひしと伝わってくる。ホームからは冠雪した北アルプスの山々が見え、この地で山を見ながら生活してきた入居者はホームに馴染むのも早く、落ち着いた生活が継続されている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価では改善点は特にない。今回の調査でも地元中学生の職場体験が実施され、学校等との交流も含め一層地域との親密度が増している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員全員で自己評価に取り組み、改善に向け検討会を開くなどホームの評価に対する取り組みは熱心であり、職員及び管理者一丸となって入居者へのサービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に一度定期的に開催されている。ホームの入居者の様子や行事等を報告し、ホームの取り組みの報告、推進委員からの質問・提案等活発な意見交換が行われている。学校の先生が委員として参加されており、中学生の体験学習の提案等もあり、話し合いを重ね取り組みが行われ、双方に良い影響を与え合った。会議で話し合われた避難訓練についても地域の方の協力が得られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族には些細な事でも相談出来るようアンケートを実施している。面会時や施設からの便りで日常の様子も理解されている。またホームでは気軽に声掛けし相談できるような雰囲気づくりに努めている。ターミナル期に際しては医師と話し合い、家族・本人の意向を受け入れ、沿うよう心掛けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	複合施設内にミニ公園があり、そちらで近くの幼稚園児の歌を聞いたり、地元小・中学生が来て花を植えたりしている。また、地域の方から野菜や果実の差し入れがあり、気軽に声を掛け合いながら訪れてくれる顔見知りの住民が増えている。世代を越えた交流が生まれ、地域に開かれている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『地域の方がその人らしく生き生きと』を理念の柱におき、住み慣れた地域生活の中での継続支援と地域との関係強化を掲げた地域密着型サービスの果たすべき内容となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回開かれる全体会議の際は理念に基づいた支援がなされているかどうか、その都度、理事長自ら職員に問い、確認し、全員で共有しながら具体的なケアに取り組み、意思の統一を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	外出や散歩の際はお互いに挨拶を交わし、買い物等で出会った地域の馴染みの友達がホームに訪れ賑やかで笑い声が弾む時もある。近所の方からは梅や野菜の差し入れがあり、庭の草むしりや花を一緒に植えたりして心豊かな交流にもつながっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は全職員で行い、その意義と目的を理解している。実践に向けて意見の統一を図りながら取り組んでいる。		

グループホームこまくさ野村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーである学校の先生から中学生の職場体験学習の提案があり、話し合いの上実践した。双方で、この取り組みについては好評であった。また、これを機にメンバーの率直な意見をいただけるよう取り組みがされている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人の運営する複合施設の中に塩尻市在宅介護支援センターもあり、常に市との連携が取れる関係が築かれている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告や連絡は毎月発行する複合施設全体の『こまくさ便り』や年3回発行するホーム便り『あぜ道』を通じ行っている。行事や入居者の日常の様子、職員の異動等も知らせている。金銭管理は出納帳の写しと領収書を添え家族の確認を受けている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年1回アンケートを実施し、その結果、家族からの不満や苦情があった時は速やかに対応出来るような仕組みがある。現在、意見や苦情等は殆ど聞かれない。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の際は入居者に報告があり、本人から挨拶があるので納得している。家族には面会時及びお便りで報告がされている。異動があっても明るく生活出来るように引継ぎについては時間を十分取り、馴染みの関係づくりには配慮している。		

グループホームこまくさ野村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の学習会・研修会への参加は本人の希望に沿えるように支援している。参加後は会議で報告し、研修内容の共有化を図っている。複合施設独自の内部研修も3ヶ月に1回開かれている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の勉強会に参加し、常にサービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ敷地内の複合施設のデイサービスやショートステイを利用し、馴染みの関係が出来てから入居された方が数名いる。それらの方は継続支援で不安感もなく、戸惑いなく生活が出来ている。初めての方は事前に見学をしたり、職員が面会に行き、安心して入居できるよう配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者の生活歴を大切にしながら、共に生活する家族の一員として個々の思いを大切に、人生の先輩から知恵を貰い支え合う良好な関係を築いている。訪問当日、干し柿にするための柿を上手にむいている入居者に声を掛けると、『こうむくと良いんだ。続けると途中で皮が切れるから、休みながらやると良い』と教えられた。職員がごく自然に入居者のもてる力を引き出し、自らも知恵をさりげなく会得していることが窺えた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の気持ちを尊重し、日常生活の中から本人の思いや希望を把握出来るよう職員は心掛けている。一人ひとりの生活に合わせた支援を心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者の視点に立ち、日頃の関わりの中で本人・家族と話し合い、双方の意見や職員のアイデアを反映した介護計画の作成に当たっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しは行われている。また、状態変化に応じ随時見直しも行っている。本人はもとより家族の気持ちも大切に介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	近隣への買い物や同じ敷地内のクリニックへの受診の付き添い等で支援している。ホーム内でのサービスではないが併設デイサービスでリハビリを行ったり、複合施設の良さを活かした交流など柔軟に対応している。		

グループホームこまくさ野村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医が同じ建物内におり、入居者の変化や健康面での相談がその都度行われ、適切な医療支援体制が出来ている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	1階のクリニックに本人家族が希望するかかりつけ医が常駐している。状態の変化に応じ医師が本人や家族と充分話し合い、ホーム側が対応出来る支援について説明が行われている。	○	本人や家族は納得しているが揺れ動く気持ちもあるので、状態変化に応じた繰り返しの話し合いと段階に応じた確認・合意を更に得られていくよう望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	常に入居者本位の対応に心がけ、個々の誇りやプライバシーを損ねないよう支援している。また、研修及びミーティングの際には職員間で確認し合っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お天気や日々の体調を踏まえ、その都度一人ひとりの希望を聴きながら、入居者の意志を尊重した生活出来るよう支援している。職員サイドではなく入居者主体の生活が維持されている。		

グループホームこまくさ野村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の畑で収穫した旬の野菜を使い、入居者の経験を活かした好みの料理を職員とともに一緒に楽しんで作っている。出来る範囲での役割分担があり、盛り付けや片付け等、主婦層を活かして参加をしている。訪問時は選択メニューで、2種類の食事が用意されていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は24時間毎日可能で、何人かで楽しめる大浴場と家庭的な浴室があり、一人ひとりの希望の時間に入れるよう支援している。仲良しの方と入る時もあり、施設の日課に合わせるのではなく入居者の希望に応じた支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の得意な分野を生かせるようにしている。差し入れの柿を干し柿にするため慣れた手つきで楽しそうに皮をむく入居者の姿を垣間見た。各入居者は漬物、畑仕事、プランターで各種の花を育てたり、水くれ等張り合いを持って参加している。好きな刺身でお酒を嗜む方もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候や入居者の状況に応じ、日常的に散歩や買い物、ドライブ、外食等を楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていない。外に出かけそうな様子を察知した時は声がけをしたり、一緒に出かけたりしている。		

グループホームこまくさ野村

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、近くにある消防署の署員立ち会いのもと避難訓練を実施している。運営推進会議の際には地域の協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事状況を把握し、その人に合った食事対応をしている。また水分量や排泄量のチェック表を活用して職員が情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間には花が飾られ、入居者の作品がいたる所に飾られるなどアットホームな雰囲気が窺えた。トイレ・浴室も広くゆったりとしている。食堂は台所に近く、入居者が準備や片付けに参加しやすいスペースが確保されていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は全室南向きで陽当たりが良く、使い慣れた好みの物が自由に持ち込まれたり自分の作品が飾られる等、個々の好みにあった過ごしやすい居室への工夫が窺えた。		

※  は、重点項目。